



朝鮮半島南北和解と日本のミサイル防衛 — 山口県萩市から問う

4月27日、南北朝鮮軍事境界線に位置する板門店^{パンムンジョム}の韓国側施設『平和の家』において、朝鮮民主主義人民共和国（DPRK*）朝鮮労働党キム・ジョンウン委員長と大韓民国（韓国）ムン・ジェイン大統領による「2018年南北首脳会談」が行われました。2人は『南北は完全な非核化を通して、核なき朝鮮半島を実現する』といった文言を盛り込む南北共同宣言（「板門店宣言」）に署名し、朝鮮半島の緊張緩和、非核化への世界の期待が、一気に高まりました。韓国カトリック教会は即日で声明を発表（→P.4）、教皇フランシスコも、29日、南北首脳会談の成功を祝い、朝鮮半島と世界の平和を祈りました。

一方、日本政府は依然としてDPRKへの警戒を緩めず、南北首脳会談の翌日の28日付で、外務省ホームページに「北朝鮮関連船舶による違法な洋上での物資の積替えの疑い」を掲載、「北朝鮮の核・ミサイル開発は、これまでにない重大かつ差し迫った脅威であり、我が国を取り巻く安全保障環境は、戦後、最も厳しいと言っても過言ではありません。平成29年12月に採択された国連安保理決議第2397号をはじめ、国際社会で一致団結して北朝鮮への圧力を最大限まで高め、北朝鮮の政策を変えさせなければなりません」などとしています。

昨年2017年3月頃、政府がDPRKへの警戒措置として、陸上型イージスシステムの配備を検討している、という報道がありました。12月19日には、政府は閣議により、イージス・アショア2基を国内配備することを決定し、配備候補地として陸上自衛隊新屋演習場（秋田県）と陸上自衛隊むつみ演習場（山口県）を挙げ、選定に向けての調査を開始したとの報道がありました。「2018年南北首脳会談」後の5月22日には、政府は閣議で、DPRKは現在も「脅威」が存在するとし、イージス・アショア導入の取り組みを引き続き進めることを決定しました。

山口県萩市では、今、このミサイル防衛政策についての関心と危機意識が高まり、市民の勉強の輪が広がっています。ミサイル防衛システム強化の政策と施設の建設は、私たち市民の生活に、どのような影響を及ぼすのか、その具体的な利益と不利益は何か。本当に必要なのか。以下では、萩市の市民運動の動きを報告します。

今年になって、萩市の有志による月一回の勉強会が始まり「イージス・アショア配備計画の撤回を求める住民の会」も立ち上がり、3回目の勉強会が3月17日萩明倫館（萩市内にある史跡建築。元長州藩の藩校）で行われた。

勉強会には、30人くらいの方々が出席されており、ほとんどが中高年の男性。女性は4～5人。共産党員の出席が多いようで県議員、萩市議員の方も出席されていた。

初めに、住民の会代表の方が1時間程度かけて「イージス・アショア」の危険性、昨年2月頃からの政府の動きや大臣の発言、それに伴い山口県知事、萩市長の発言、各新聞の記事など、時系列にそっての説明があった。そのあと質疑応答が行われた。今回の報告は、今後の運動の次のステップへの足掛かりになるものだ。

●イージス・アショアとは？

弾道ミサイルに対する迎撃システムを持つ海



陸上自衛隊むつみ演習場（山口県）所在地

上のイージス艦と同様の機能を持つ施設を、陸上に配備したもの。

●イージス艦との違いは？

艦艇の場合、日本全域を防護するには3隻必要とされているが、イージス・アショアではレーダーと迎撃ミサイルの高性能化が見込まれるため、2基で防護が可能になるとされている。海上に展開するイージス艦と比較して人的負担が少なく運用が経済的。

●いつからの運用開始？

2023年度の運用開始を見込んでいる。

●イージス・アショアの価格は？

設置費用は1基当たり「1000億円」と発表されている。

●問題点（ここに書ききれない程ある）

攻撃を迎撃するには十分だが、イージス艦のように動けず固定目標となる。

改造することによって攻撃用ミサイルも発射可能。

増額続く防衛費。安倍政権は、米軍関係経費を増やし続けている。

現在、日米が共同で開発を進めているが迎撃実験に2回連続失敗している。

イージス・アショアの配備は米・ロの軍事的緊張、新兵器開発配備を一気に進めている。

配備先の萩市の住民及び、近隣自治体への情報公開は未だに行われていない。

情報は国会答弁でしか知ることができず、防衛白書にも掲載されていない。軍事機密になるので公開されていないとのこと。

県知事や市長に問いただしても、「詳しいことは知らない」とか「国の要望には協力すべき」とか、都合の悪いことには答えない。

●受け入れに積極的な意見

600人の自衛隊員が常時、滞在するので住民が増える。

経済的効果がある。交付金も入る。

●様々な住民被害・生活破壊

むつみ地域は豊富な伏流水が湧き出る湧水池が多数あり、水田や醸造に利用されているが、適地調査のボーリングが水質汚染にならないか。1961年にむつみ演習場ができただけで、水流が少なくなったという住民の声もある。

もし、この配備が実現してしまうと、ドクターヘリ（離島等の地域医療）の飛行制限区域になってしまう恐れがある（京都府の例）。交付金が入ったとしても、地元振興にはならない。逆に経済格差を招く。

イージス・アショア独自の電源施設、水冷装置施設による環境被害、騒音。

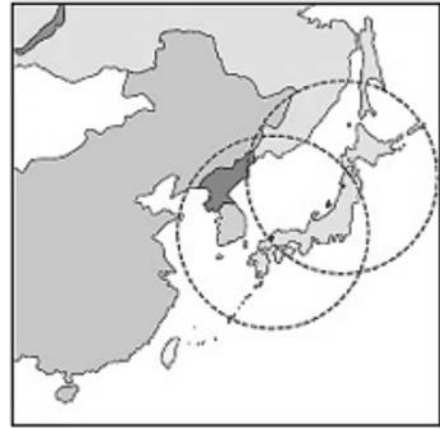
電磁波による人体への影響、農作物、養豚など環境破壊。

●電磁波の被害は深刻

イージス艦のレーダーは強い電磁波を出すため、乗員はレーダーの稼働中は甲板に出ることが禁止されている。同様のレーダー波を出し、発射時に噴煙とガスが発生するのがイージス・アショア。周辺の電磁波強度は、3キロまではとても強く、10キロ程度までは用心が必要。

●課題

賛成派と反対派に分かれ、住民が二分化され



イージス・アショア2基による防護の守備範囲

ないように運動を進めたい。

秋田県の動きを把握し、秋田県との連携を強める。

国に反対することは難しいとか、共産党の運動には賛成できないという地元の人に、これからどう説明していくか。

私たちの声を、国政につなげる方法はないか。購入する前に阻止する方法はないか。

イージス・アショアの配備には、国会議員や自衛隊の中でも賛否両論あり、多いに議論すべき重大なことと思う。「イージス・アショア配備計画の撤回を求める住民の会」は、4月28日にも現地（むつみ演習場）周辺で電磁波環境研究所の方との勉強会を行なった。市や県からの説明を待つことなく、この配備の危険性や必要性のないことをよく学び、市民の反対の声を大きくしていくことが大切だと思う。これからも、メディアを通して政治の動き、県や市の動きなどに注目していきたい。

以上、文責・正義と平和協議会事務局、協力・萩市「イージス・アショア配備計画の撤回を求める住民の会」、磯村かずよ（ベリス・メルセス宣教修道女会）

*朝鮮民主主義人民共和国は、日本では一般には「北朝鮮」と呼ばれています。しかし、「北朝鮮」という呼称は日本社会において差別的な意味合いを含む場合が多いため、DPRK（Democratic People's Republic of Korea）という呼称を用います。

韓国カトリック司教協議会声明 「南北朝鮮首脳による板門店宣言について」

第3回南北首脳会談は成功裡に終わり、南北両首脳は朝鮮戦争を正式に終結させる平和条約の締結に向けて協力することで合意しました。この歴史上記念すべき会合は、国家分断の象徴である板門店において行われました。2人の首脳が手を取り合って軍事境界線を渡ったことは、65年ぶりの出来事でした。平和と繁栄を象徴するための松の木の植樹のうち、両首脳はしばらくの間歩きながら、会話を楽しみました。そして今後も互いに敬意をもち、協力し合うことを踏まえた上で「朝鮮半島の平和、繁栄、統一のための板門店宣言」にともに調印しました。これは確かに歴史的な出来事であり、再統一された朝鮮半島の新たな時代の幕開けへの希望を感じさせるよい知らせです。

韓国カトリック教会は1965年以降毎年6月25日に「朝鮮民族の和解と一致のための祈願日」を祝い、この地に永遠に真の平和が訪れ、朝鮮民族が和解し一致するよう祈ってきました。教会は、韓国カトリック司教協議会の朝鮮民族和解委員会を通して、南北朝鮮の和解と一致のために、民間で交流と支援を行ってきました。私たちの平和に向けた心からの祈りと働きに対する応えとして、南北首脳会談を成功させてくださったことを主に感謝します。そして、今回の成功が、国の再統合と人道的な交流に向けた私たちの司牧的な使命のための原動力となるよう願い、祈りをささげます。

人々の励ましと南北両首脳の働きのおかげで、朝鮮民族が今日、平和への偉大な一步を踏み出したことは、すべての人にとって非常に喜ばしいことです。私たちは、主が朝鮮半島に平和という賜物をお与えになると固く信じています。私たちはまた、今日の南北共同宣言と来るべき米朝会談により、朝鮮半島を希望の地に変えるという素晴らしい実りがはぐくまれるよう望みます。そして最後に、この出来事が、アジアだけでなく全世界に平和を築くため、大いに貢献するよう望みます。

韓国カトリック教会は、朝鮮半島に平和が恒久的に築かれ、引き裂かれた民族が一つになる日が訪れるまで、朝鮮民族の和解と統一に向かう旅に一つになって寄り添い続けます。

2018年4月27日

韓国カトリック司教協議会会長
金喜中大司教

*以上は、韓国カトリック司教協議会サイト掲載 Message from the President of the Catholic Bishops' Conference of Korea (英文) を和訳しました

報告 平和のための脱核部会東京集会

(2018年5月12日、カトリック麹町聖イグナチオ教会ヨセフホール)

「おしどりマコ・ケンとすてきな未来を作ろうよ」

■ 昼間範子(平和のための脱核部会事務局)

おしどりマコさん・ケンさんの2人は、吉本興業に所属する夫婦漫才のお笑いタレントです。2015年、日本司教団のアドリミナ（定期教皇謁見）の際、教皇フランシスコに東京電力福島第一原発事故の被害地域の現状を訴えるための手紙を、勝谷太治司教に託そうと、この年3月に開いた、平和のための脱核部会仙台集会（仙台教区元寺小路教会）にやってきました。脱核部会とは、それ以来のご縁です。

大阪出身の2人は、大阪から東京に活動の場を変えた直後の2011年3月11日、東日本大震災に遭遇し、芸人であるがゆえにマスメディアの舞台裏を目撃して、ニュースで流れる原発事故に関する報道内容と、報道関係者の間で常識化している事実との間に大きな隔たりがあることに気づいたそうです。そして、多くの事実が隠されている状況に危機を感じ、東京電力で毎週行われている定例記者会見に欠かさず出席するようになったのです。

事故直後の東電記者会見には、100人を超える取材陣が詰めかけましたが、今では5、6人の記者だけ、という日もあるそうです。東電の記者会見担当者も何代も変わりました。しかし2人は、記者会見に出席し続け、福島事故追求の手を緩めません。原子力規制庁や福島県県民健康調査検討委員会の記者会見、避難解除地区で農業を再開するための説明会、全国各地で行われている福島原発訴訟、ドイツの脱原発市民運動にも毎年招かれ、国を超え、取材の幅をどんどん広げています。

今回の話題も多岐にわたりました。現在、福島第一原発内で最も被爆するという汚染水タンクの底で行われるモップによる排水作業について。農家の被曝リスクについて（テレビや新聞では、「風評被害」で野菜が売れないという話



をよく聞きます。しかし、土壌汚染はいまも深刻で、作物はカリウムを肥料に撒くことでセシウムの吸収を抑えることができて、農作業中の被曝を避けることはできません。）汚染土の処分について、福島県住民の福島県県民健康調査への関心は、事故直後よりもずっと高まっているのに、健康調査はなぜか縮小の方向にあること（でも今、原発事故や汚染について話すのは、福島県の復興の妨げになるから、なかなか口に出せない状況です）。国と東電の過失責任を問う訴訟を起こしても、最高裁判決までには本当に時間がかかり、原告の遺族が裁判を続けざるを得ないという、日本の司法の現実。

毎日歯を磨くように、社会のことを考えよう。歯を磨かなかつたら虫歯になるように、社会を考えることを怠ったら、きつとっぺ返しがかかる。でも社会を考えるというのは、そんなに難しいことではなくて、生活の周りにある小さな気づきから、幸福であるために全力で闘うこと！おしどりのトークはそんな言葉で閉められました。

トークはyou tube にアップしたので、「平和のための脱核部会東京集会 おしどりマコ・ケンとすてきな未来をつくろうよ!」で検索をお願いします。また、詳細な内容は、脱核部会ニュースレター「Atoms Free for Peace」次号に掲載する予定です。ご覧になりたい方は、正義と平和協議会事務局まで、お問い合わせください

福島原発事故による避難区域の現状とこれから

■ 高瀬つぎ子（仙台教区信徒・大学教員）

1. はじめに

東京電力福島第一発電所の事故から7年が経過し、国やマスコミから発信される情報に接していると、「福島では県内の除染が進み、最初に避難区域に指定された市町村のうち、70%の地域で避難指示が解除された。これらの地域では道路や公共施設などのインフラの再整備も進み住民の方の帰還準備が整い、福島の復興は順調に進んでいる」という印象さえ受けます。

しかし本当に「避難指示が解除された地域で、住民の方が安心して原発事故以前のような生活ができる環境が整備されているのでしょうか?」。この小文では、この疑問に焦点を当てて記述していきたいと考えています。

2. 避難区域の現状

1) 避難区域の変遷¹⁾

原発事故直後、原発から半径20kmの範囲が避難区域に指定されました。しかしこの指定は、科学的根拠に基づかない機械的な線引きであったため、放射性物質が多量に降下した地域（浪江町津島地区や飯館村南部など）に避難指示が出ていない、という事態を招きました。この地域に避難指示（計画的避難区域指定4月22日）が出されるまでの40日あまりの期間、住民の方は放射性物質による汚染（放射性ヨウ素を含む）にさらされることになりました。

また、このような避難指示地域の設定方法は避難区域の中に放射性物質による汚染状況の異なる地域（高濃度汚染地域と低濃度汚染地域）が混在するという状況をもたらし、結果的に住民の方の間で「『放射性物質による汚染』についての認識の共有ができない」という状況が発生する一つの要因になった、と考えられます。

◎避難区域の解除

2014年4月に田村市（一部）の『避難指示解除準備区域』の指定が解除されたのを皮切りに、

現在までに2011年に指定された避難区域の約70%（面積）の指定が解除されました。しかしこれら解除区域の大部分は、『避難指示解除準備区域』と呼ばれる放射性物質による汚染が比較的少ない地域（年間積算線量が20mSv以下になることが確認されている地域）であり、『居住制限区域』（年間積算線量が20～50mSvになる地域）での本格的な除染作業が終了し、指定の解除が始まったのは2016年6月以降のことです。

つまり、「『帰還困難区域』（積算線量が50mSv以上）と呼ばれる高濃度汚染地域は本格的な除染作業が行われず、7年前の状態のまま放置されている」というのが、避難区域の実態です。

「5年以上、全く住民の方が住んでいられなかった地域で、原発事故以前のようなコミュニティー（経済活動、地域生活）を再生することが本当に可能なのでしょうか?」。

『居住制限区域』の指定が解除された地域の場合、地域の中でJRや幹線道路（国道、高速道路：『帰還困難区域』では通過のみOK、側道には侵入できない）、小中学校や診療所、コンビニなどのインフラは整備されつつあります。しかし、それは『点としてのインフラの整備』であり、住民の方が安心してうるおいのある社会生活を送れる状況とはほど遠いものがあります。先日、常磐線が部分再開し、駅前に1軒のコンビニ（夕方になると閉店する）とビジネスホテル（原発関連の施設で働かれる方々向け?）が新設された『富岡駅』を訪れる機会がありました。その時、コンビニとホテルの他に商店街が見当たらない、生活感の失われた街の現状を目の当たりにし、この地域で原発事故以前のような社会生活（何気ない人々の日常の暮らし）を取り戻すことの難しさを改めて感じました。

2) 『帰還困難区域』のこれから

それでは「現在、避難指示が解除されていない地域（最初に避難区域に指定された地域の約

30%)は、今後、どのように整備されていくのでしょうか?」

環境省や原子力規制庁は、これらの地域に、福島県内の除染作業で発生した放射性セシウムを含む土壌や焼却灰などの保管(?)のための中間貯蔵施設(大熊町および双葉町:総面積16km²へ、貯蔵量1,600~2,200万m³(東京ドームの13~18倍))や原発の廃炉に向けての技術拠点などを設置しようと計画しています。現在、中間貯蔵施設の一部(ストックヤード)の運用が開始され、福島県中通り地方(福島市や郡山市を含む福島県の中央部)に仮置きされていた放射性セシウムを含む土壌が、大型トラックによるピストン輸送で中間貯蔵施設へと移送されています。また、大熊町には東京電力や日本原子力機構による廃炉のための技術拠点が整備され、そこで働く方のための施設が整備されつつあります(帰還困難区域や居住制限区域の限定された地域のみを除染を行い、廃炉関連施設などの長期的に安定した運営を維持するという考え方)。

政府によって進められているこれらの計画をみると、福島原発から半径5kmの地域(一部地域を除いて)では、住民の方の帰還を前提としない『福島原発の廃炉のための前線基地の構築』が着々と推し進められているように感じられます。そして『この地域に住んでいらっしゃる住民の方の明確な同意(十分な説明)がないままに、これらの計画が既成事実化されつつある』というようにも感じられます。

3. 廃炉に向けての工程と若い世代

1) 廃炉作業の現状

福島原発本体の廃炉に向けて原子炉の建屋内部のプールに保管されていた使用済み燃料棒(破損していないもの)を原子炉建屋の外に運び出す作業が2013年11月から開始され、現在、3号機のプールからの燃料棒の運び出しに向けての作業が進行しているところです。

しかし、廃炉作業の最重要課題である原子炉内部に存在する燃料デブリ(核燃料が過熱さて融解した後冷え固まった、非常に高濃度の放射

性物質を含む固体)の取り出し・処分に関しては、原子炉内部での燃料デブリの存在状態の確認や具体的な取り出し方法の検討が開始されたばかりで、燃料デブリの取り出しに向けての具体的な工程は、まだ確定していません。

2) 廃炉に向けての工程を担う人材

今後、燃料デブリの現状を把握した上でその取り出し方法を確立していくためには、多くの試行錯誤を含む困難な技術開発の過程が予想されます。そのため、『今後40年以上にも及ぶこの工程を担う人材は?』ということが大きな課題になります。

「原子力工学を専攻した若手の技術者が福島原発での仕事を希望したくない」という現状の中で、政府は、地元の大学や工業高専に補助金を交付するという形で「原発の現場に対応できる若手技術者の育成事業」を開始し、実際に地元の大学出身の新卒の技術者が原発周辺の現場(大熊町内に整備された拠点:社員寮と職場とその関連施設だけが存在するという環境)で働き始めています。

4. むすび

このような避難区域の現状をみる時、その地域の方々の社会生活を一瞬にして奪い去ってしまう原発事故の悲惨さを改めて感じると同時に、「『住民の方が安心して暮らせる環境の回復』とは程遠い」復興政策の現状に、やりきれなさを覚えます。そして、この7年あまり、数々の困難の中、「自分たちの進むべき方向を懸命に模索し、識別してこられた福島の皆様、個々人の選択の『重み』」を肌で実感している福島在住の私は、住民の方の意向が真の意味で尊重される復興計画の実現を心から望んでいます。戦後一貫して首都圏の物資・人材の供給基地としての立場を担ってきた、私たち福島の住民が、「社会のしがらみに気後れすることなく、自由な気持ちで進むべき道を選択し、それを表現することができますように!」という願いをこめて。

注1) 放射線量等分布マップ拡大サイト(web site)

インタビュー

「集めよう！3000万人署名 止めよう！9条改憲 カトリック シスターたちが呼びかける署名行動」の呼びかけと これから

4月14日（土）12：00から1時間、新宿駅西口の小田急デパート前で、「平和をつくり出す宗教者ネット」、「平和を実現するキリスト者ネット」、日本カトリック正義と平和協議会、三者共催で、「集めよう！3000万人署名 止めよう！9条改憲 カトリック シスターたちが呼びかける署名行動」を行いました。カトリックシスター 約50人を含む約100人の参加者で改憲反対を訴え、3000万人署名の協力を求め、約400筆を集めました。また、朝日新聞、毎日新聞、キリスト新聞、東京民報、しんぶん赤旗、カトリック新聞などのメディアが記事に取り上げていただきました。

この集まりの2週間後の4月28日、援助修道会管区本部（東京）にて、呼びかけ人となった2人のシスター、シスター大田伊杜子（援助修道会）とシスター清水靖子（ベリス・メルセス宣教修道女会）に、思いと感想を伺いました。

事務局 それでは、率直な感想から、聞かせてくださいますか。

大田 感動の嵐です。参加者が集まらなかったら、誰も署名に応じてくれなかったらと不安でしたが、二日前にサレジアン・シスターズから9人で参加しますという連絡があって、これなら大丈夫だと思いました。イエスのカリタス修道女会のシスター3人がすでに歌を歌ってくれる約束をしてくださっていたので、これで12人並ぶことになるから、もういける、と思った。そうしたら蓋を開けたら、50人も参加してくださってびっくりしています。

清水 終了時に書いて頂いた参加者名簿を見ると、20以上の修道会が参加してくださっていました。老いも若きも、修道服とベール姿のシ



インタビュー中のシスター大田伊杜子（右）とシスター清水靖子（左）

スターたちが、街頭に溢れ、歌い、呼びかけ、人々に感動を与えました。市民運動の方たちによる署名集めとは、道行く人の反応が違いますね。シスターたちと話してみたいと思って、近づいてこられる方々が、嬉しそうに会話をし、署名をしておられました。1時間に300通以上の方が署名してくださったとは、奇跡に近いことだったと思います。

大田 歌がとても良かった。当日参加してくれた一人のイエズス会の司祭が「こういう運動が日本にはなかったんだ」とおっしゃっていました。歌があったから、これほど署名が集まったのではないかと思います。最初はみんな緊張して硬かったけど、歌を歌って、だんだん緊張がほぐれて来たようです。シスターたちが、路上の人の無関心さを知ってくれたのもいい経験だったのかなとも思います。

でも、御茶ノ水で仲間と7、8人でやっても、集められるのはだいたい30筆くらいなんです。この間は、400筆も集めることができたのだから、やはり大した反応だったと思います。やはり修道服の力かなと思いました。インスタ映えしますよね。

事務局 修道服を着ていると、怪しいものでは

ないのがわかるので、信頼して署名できるというのがありますよね。

大田 やはり修道服を着ているだけで、こういう生活をしている人たちがいるんだなと思ってもらえるから、修道服を着るのも、大切な宣教なんですよ。

清水 この日は、「私たちはもう黙ってられない」という霊の息吹が皆のうちに吹いていて、神さまが、そうした私たちの背中を押してくださったのだと確信しています。

いつもは修道院でお祈りをしているシスターたちのエネルギーが人々を魅了しました。例えば聖ドミニコ宣教修道女会とか、お告げのフランシスコ姉妹会とか、聖心の布教姉妹会とか…、日ごろ街頭で声をあげることはなさなかったけれど、こうした問題に熱心に関わってこられた。そのことが、今回のように街頭に出られたときに、溢れる思いとして自然なかたちで、道行く人に伝わったということが感動的です。他の修道会の方々も、もちろん同様に…。

大田 聖心の布教姉妹会では修道院に憲法9条のバナーを立てているそうですよ。

清水 途中で帰られたシスターもいらっしゃるので、延べ60人は来られていたでしょう。

事務局 もっと早くに全体写真を撮って、名前を伺っておけばよかったです。

大田 今回は初回だったから、反省点もありましたね。

清水 私が新聞社からの取材を受けているうちに、どんどん進んでいて、役割分担など、始まる前の打ち合わせをもっときちんとしておくべきでした。

事務局 今回はみんな若葉マークの人ばかりだから。そこがいいところでもあったのではないのでしょうか。

清水 そうですね。新宿の西口一帯を、シスターたちが、熱心のあまり、道の真ん中まで出っ張って行って、自然に占拠？してしまったというのは、ほのぼのしていて素敵でした。地上の天国が実現したという気がしました。

事務局 今後はどうされますか。

清水 これから皆で話し合っていくことで、今はどうなるかわかりませんが、規模は小さくても、シスターたちのアピールと歌をメインにして、3ヶ月に1回くらいのペースで続けていけたらいいですよ。

大田 「平和を実現するキリスト者ネット」の事務局の方に相談したら、シスターたち独自でやっていくのがいいのでは、とおっしゃってくださいました。のんびりした雰囲気になるかもしれないけれど、それもいいですよ。

清水 シスターたちの中には、私からお願いして、アピール文を用意して来てくださったのに、チャンスを失った方たちがいらっしました。これも反省点で、お詫び申し上げました。これからは、シスターたちだけで、アピールできるように、練習して行ったらいいと思います。

大田 みんなやればできるんですよ。オリジナルの横断幕を作ってもいいですね。協力の輪を広げて、それぞれの修道会の得意な分野を生かしてできたらいいですね。

清水 後日行われた日本女子修道会総長管区長会の世話人シスターの集会でも、14日のことが話題になって、多くのシスターたちが喜んでおられたことを知りました。それは嬉しいことでした。今後も協力をしてくださるとのことです。

さらに新聞にも載り、読まれた方々から、「シスターたちの行動は、多くの人に感動を与えてくれました」「私たちも今何かをしなければならぬ」という反応やメールを頂きました。

大田 私はいつも署名集めのために街頭に立つと、みんなあまりに関心で寂しくなっていたんです。若い人たちはいったいどういう風に感じているのかしら、食べることに精一杯で、ギリギリの生活をしているのだからしょうがないのかな、と思っていますが、そういう人たちを揺り動かせるものになったらいいですね。

事務局 ありがとうございます。これからは継続的な行動になって行くように、正義と平和協議会としても応援します。

(以上、インタビューとまとめは

日本カトリック正義と平和協議会事務局)

「愛する人の喪失、そして召命」

■ 柳川朋毅（死刑廃止を求める部会事務局）

「お前の大切な家族が無残に殺されても、それでも“死刑廃止”だなんて言えるのか！？ 遺族の気持ちを考えてみろ！」死刑廃止を目指して活動していると、このような言葉を投げかけられることも珍しくない。では、実際に家族を殺された「遺族」は、どんな気持ちを抱いているのだろうか。

死刑廃止を求める部会では4月14日、イエスズ会岐部ホール（東京）を会場に、日本聖公会のステパノ卓志雄（タク・ジウン）司祭をお呼びし、「愛する人の喪失、そして召命」という講演会を開催した。韓国出身の卓司祭は、1994年に愛する父親を「惨殺」された経験をお持ちの方だ。遺族として、そしてキリスト者（司祭）として、その率直な思いを語っていただいた。

卓さんが父親を殺害されたのは、海軍に入隊していた二十歳のころ。犯人の男はすぐに捕まり、無期懲役の判決を受けた。実はこの事件はあるカルト宗教の信者が起こした組織ぐるみの「テロ」なのだが、当時の政府はそれが正しく捜査されないよう圧力をかけた。さらに社会の無関心も加わって、結局犯行教団の責任が問われることはなかった。

実行犯として服役した男はすでに釈放されているという。卓司祭は、犯人に対する思いをこのように語る。「彼に一度会ってみたい。一発ぶん殴ってやりたいという思いもあるが（笑）、なんで父親を殺したのか聞きたい。そして今、何を考えているのか聞きたい」。その願いはまだ実現していない。

裁判では当初、死刑が求刑された。それに対し、自分以外の家族は、犯人の死刑回避を求める嘆願書を出していたと後に知った。もしも当時そのことを知っていたら、強く反対していただろうと振り返る。愛する人を喪って、もう会うことができない悲しみ。幸せだった元通りの生活を返してほしいという嘆き。そんな悲惨な現実を生み出した犯人への憎しみ。そして犯人

にだけでなく、政権や捜査機関、社会への怒りも入り混じっている。犯人を「赦す」だなんて、当時の彼にはとても考えられなかったのだ。

事件を機に過度な飲酒に溺れ、嘆きと涙に明け暮れる日々を過ごした。けれどもその後、自分と同じように不条理な出来事によって怒りや悲しみを覚えている人と共に歩みたいという思いから神学の勉強を志し、いつしか司祭への召命を覚えるようになる。

「神様の導き」としか表現できないような不思議な縁によって、今は日本で司祭として働いている卓司祭は、今でも自身の中に残る葛藤を正直に話す。「キリスト者として、赦しはとてもいいことだと思っている。復活したイエスが、自分を裏切った弟子たちを責めるのではなく、聖霊を与え、赦しを説いたように（ヨハネ20・22 - 23）、私の霊名でもある最初の殉教者ステパノの最期の言葉のように（使徒7・60）。ただ、心の中に悲しみと怒りがあり、正直、私はまだ赦していない。“赦したい”という気持ちはある。そして何より“癒されたい”という思いがある」。

当日は、韓国のドキュメンタリー映画『赦し～その遥かなる道』の上映も行った。映画の中には、愛する家族を殺された数組の遺族が登場する。犯人を赦そうと決意するものの周囲からの理解を得られず苦悩する家族。犯人への怒りと復讐心を燃やし続けることで日々を必死に生き抜く家族。「赦し」の大切さを口にするのは簡単だが、実際に「赦す」ということはこうも難しいことなのかという現実を叩きつけられる。

一口に「遺族」といっても現実には様々な姿がある。またその怒りや悲しみはとても複雑で、単に犯人を死刑にすれば解決できるほど単純なものではない。確かに困難な道のりではあるが、真の癒しのためには、その遥かなる道を一步步歩いていくほかないのかもしれない。その歩みにどう寄り添っていけるかが問われている。

平和の証人たち 主を見よ！ 泉を探し求める者は水路を辿り、遡らねばならない

■ パク・ユミ

わずか12ヵ月前まで、誰も予想できなかった韓半島と北東アジアの情勢に向き合い、平和に対する期待と喜びと憂慮のうちにあって、改めて、さらに深く悟ることがある。祈りの力。人々の献身と努力。そして何より、このすべてを導いてくれた平和の神！

「平和」。愛と共に最も多く言及される美しい言葉だが、実現するのは難しい。しかも国家間の利害が絡む場合、複雑で困難を極める。冷戦体制が終わり、新たに浮上した中国をけん制しながら北東アジアに戦略的に集中する米国や、軍事的優位に立つことで自国の影響力を高めようとする諸国間で、軍備縮小、核兵器の廃棄、非武装は、主張することすら難しい。

情報が制限され、犠牲者が出てもおな、人びとを説得しにくいのが力の論理だ。とりわけ、60年以上続いた冷戦時代の安保論理が今だに利用され続け、覇権国家の利害が絡む韓半島では、相手国の政治状況によって協約も手のひらを返すように破棄され、結局、生存のための核開発によって、緊張が極大化した。こうした状況での平和への足取りは、市民の望みがどれほど大きかったとしても、決して簡単なことではなかった。皆、このような状況をあまりにもよく知っているため、「韓半島の平和は世界平和の第一歩」と、ローマ教皇が世界に求めた祈りも、韓国司教団の求めに応じた修道者、信徒たちの9日間の祈りも、人智を超えて平和を成しとげる神に希望をおいたものとなった。

「主を見よ！世の中が変わるのだ。あなたが新しい目で世の中を眺めるからだ」。12世紀、戦争や飢餓、疾病、そして新たな秩序という混乱の中で、絶望し、道に迷い、道を探し求める人を呼び集め、中世の神秘家、ビンゲンのヒルデガルトが伝えた言葉だ。時代を超えて今日でも通用する預言者の言葉だ。多くの困難の中で、人びとの反対を押し切って、ただひたすら道を示す主に従って、預言者としての召命を果

たそうと旅立ったヒルデガルトの道。この言葉は、その途上で、自らを引き締め、体験した言葉でもあっただろう。世にどんな計算や論理があろうとも、主のみを見て進む時、すべての状況は新たに見え、世界が変わる。生きた教えだ。

突発的に見える今日の動きがあるのは、多くの人びとが抑圧され苦痛を受けながら、韓半島の和平のために献身してきたからだ。同じ民族として対話し協力し、平和協定を結ぶように求める動き。南北朝鮮が自ら平和を実現してお互いの福祉を向上させるよう、在韓米軍の問題点を指摘し改善を要求する動き。沖縄との連帯の動き。1989年には、ムン・ギョンヒョン神父と全国大学生協会代表のイム・スギョンが、政府の弾圧を受けながら、直接北朝鮮を訪問し、南北相互交流の道を開き、板門店パンムンジョムを通して帰って来た。彼らと行動を共にした人々が、1994年、「平和と統一を開く人々」という団体を結成し研究や教育の活動を始め、現在、22地域に3500人余りの会員を持つに至っている。

6月はイエスの聖心の月だ。ヒルデガルトの願いのように、イエスの聖心に通じる門となり窓になってくださった聖母の聖心を、深く瞑想する。「あなたが水源を発見したいなら、/水路にそってさかのぼらねばならない。/勇敢に乗り出すべき、終わりまで探せ、屈するな…。ヨハネ・パウロ二世が引用したポーランドの詩人ジェルシレックの詩の一節のように、「主を見よ！世の中が変わるのだ」としたヒルデガルトの言葉のように、世の中のいかなる論理や誘惑にも屈せず、大量殺戮の可能性を減じ、軍事力による偽りの平和ではなく、公正に協力しながら一緒に暮らす真の平和の実現のために必要とされる私たちの力をかみしめる。

真の平和を実現させる人びとに感謝し、韓半島の平和のみならず、北東アジア、世界平和のために進むべき、韓国の道を確認する。

- 1 朝鮮半島南北和解と日本のミサイル防衛― 山口県萩市から問う
- 4 韓国カトリック司教協議会声明
「南北朝鮮首脳による板門店宣言について」
- 5 報告
平和のための脱核部会東京集会
「おしどりマコ・ケンとすてきな未来を作ろうよ」…………… 屋間範子
- 6 福島原発事故による避難地域の現状とこれから …………… 高瀬つぎ子
- 8 インタビュー
「集めよう! 3000万人署名 止めよう! 9条改憲 カトリック シスターたちが呼びかける署名行動」の呼びかけとこれから
- 10 報告
ステパノ卓志雄司祭講演会「愛する人の喪失、そして召命」
…………… 柳川朋毅
- 11 連載第11回 小さな泉が川となる …………… パウ・ユミ
- 12 まんが「ポストランテの石橋さん」

表紙写真 4月14日 新宿駅西口の小田急デパート前にて、「集めよう! 3000万人署名 止めよう! 9条改憲 カトリック シスターたちが呼びかける署名行動」を行いました。(→ p.8)



事務局
より

JPブックレットvol. 8 2017年憲法連続講演会

「平和を求めて、これを追い求めよ ―憲法の危機と人間の尊厳―」講演録発行のお知らせ

正義と平和 えとせとら…

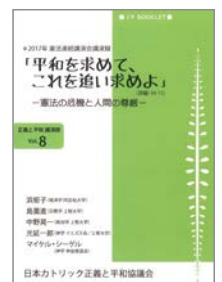
各地
からの
報告

安倍政権下、日本政府の改憲への動きが急速に進むなか、日本カトリック正義と平和協議会は、現行の「日本国憲法」の憲法の真価を問い、改憲の危機を訴えるため、2017年秋、憲法連続講演会「平和を求めて、これを追い求めよ ―憲法の危機と人間の尊厳―」を緊急開催しました。このたび、その講演録を発行いたしましたので、ご案内いたします。

(A5判150ページ) 講演タイトル／講師

- | | |
|--|---|
| 1. 「闇を切り裂く光〜グローバル時代を照らす日本国憲法〜」
浜 矩子 (経済学 同志社大学) | 4. 「日本国憲法とカトリック」
光延一郎 (神学 イエズス会/上智大学) |
| 2. 「日本国憲法と平和といのちの尊厳」
島 蘭 進 (宗教学 上智大学) | <併載> |
| 3. 「人間の尊厳を擁護する政治と憲法」
中野晃一 (政治学 上智大学) | 5. 「戦争と平和、暴力と非暴力、そして憲法」
マイケル・シーゲル (神学 神言修道会) |

◆講演録は製作実費200円のカンパと送料のご負担をお願いします。詳細は、事務局までお問い合わせください。



編集後記

5月12日の平和のための脱核部会東京集会で、おしどりの2人のトークの後に設けた座談会の席で、私の質問に、福島から区域外避難をされている方が応えて下さった。記憶に残ることだったので、書き留めておきたい。私は、増え続ける核廃棄物を、結局誰かが引き受けなくてはならないとしたら、福島県ではなくて、東電の電力を使っていたエリアが引き受けるのが、最低限の責任というものではないかと言った。これに対して、おしどりさんがまず、結局は拡散しないことが最良なのだと言われ、それに続けて、その福島出身の方が、それは「どこ」が引き受けるかより、未来の世代に被害を及ぼさないために、「いま」が全力で引き受け関わらなければならないのだ、とおっしゃった。教皇フランシスコは、使徒的勧告『福音の喜び』で「時は空間に勝る」と語った。一致し協力して問題を解決する「時」というビジョンが、「いま」の私たちには求められている。(h.)



発行日 2018年6月1日 (隔月発行)
編集発行 日本カトリック正義と平和協議会
〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10
TEL.03-5632-4444 FAX.03-5632-7920
E-mail jccjp@cbcj.catholic.jp

購読料 年 1,500円 (送料共)
郵便振替 00190-8-100347
加入者名 カトリック正義と平和協議会

<http://www.jccjp.org>